

2016 年度

事業報告書

公益財団法人 NHK 交響楽団

I. 序にかえて：N響創立 90 周年のヨーロッパ公演

2016 年はN響創立 90 周年の記念すべき年だった。その記念事業の最後を飾るものとして、ヨーロッパ公演を行った。2月25日から3月10日までの2週間の旅程で、列車やチャーター便の飛行機を駆使して、ベルリン、ルクセンブルク、パリ、アムステルダム、ロンドン、ウィーン、ケルンの6カ国7都市を回る強行軍だった。指揮はN響首席指揮者のパーヴォ・ヤルヴィ、ソリストはジャニーヌ・ヤンセンが務めた。プログラムは大きくは2つに分かれ、(A) モーツァルト《ヴァイオリン協奏曲第3番》とマーラー《交響曲第6番「悲劇的」》(B) シベリウス《ヴァイオリン協奏曲》とショスタコーヴィチ《交響曲第10番》で構成した。また、ロンドン公演ではソリストは出演せず、マーラーの《悲劇的》に加えて、日本を代表する作曲家・武満徹の《弦楽のためのレクイエム(1957)》を取り上げた。

N響のヨーロッパ・ツアーは、2013年以來4年ぶりのことだが、ザルツブルク音楽祭など夏の音楽祭を巡った前回とは異なり、今回は、その多くが世界一流のオーケストラを擁し、音楽情報の発信地である主要都市での公演だっただけに、演奏はN響の実力が試される文字通りの真剣勝負となった。

「ベルリン・フィル、ウィーン・フィル、コンセルトヘボウ、NHK交響楽団。みなさんは日本のオーケストラをヨーロッパのトップオーケストラと同列に並べるなんて考えられたらどうか？ 私自身、そんなことは考えられなかった一少なくとも昨夜までは。」(注1)

結果は、我々にとってうれしいものだった。公演に対する現地メディアの評価は高く、音楽関係者も温かく受け入れてくれたが、何よりも、コンサート会場を埋めた大勢の観客(注2)の鳴り止まない拍手と、その賞賛の渦の中に身を置いた楽員、ステージ・スタッフの高揚感が公演の成功を示すものとなった。N響が世界に向けて踏み出す確かな感触を得た瞬間だった。

また、ヨーロッパ公演の直前に、パーヴォ・ヤルヴィ/N響によるCD『R. シュトラウス/英雄の生涯&ドン・ファン』が海外でもリリースされ、ヨーロッパ各国のメディアで高い評価を受けたことも、ツアー成功の一助となったものと思われる(注3)。

(注1) [the art desk.com](http://theartdesk.com)

Tuesday, 7 March 2017 by David Nice

「 “熱い情熱で突き進む、高精度のマーラー”

NHK交響楽団/パーヴォ・ヤルヴィ/ロイヤル・フェスティヴァルホール」

(仮訳：N響事務局)

(注2) ヨーロッパ公演入場者数

ベルリン公演 (2/28 ベルリン・フィルハーモニー)	(A) 1,769 名
ルクセンブルク公演 (3/1 フィルハーモニー・ルクセンブルク)	(B) 1,313 名 【完売】
パリ公演 (3/2 フィルハーモニー・ド・パリ)	(B) 2,417 名 【完売】
アムステルダム公演 (3/4 コンセルトヘボウ)	(B) 1,922 名 【完売】
ロンドン公演 (3/6 ロイヤル・フェスティヴァルホール)	1,828 名
ウィーン公演 (3/7 ウィーン・コンツェルトハウス)	(B) 1,881 名 【完売】
ケルン公演 (3/8 ケルン・フィルハーモニー)	(A) 1,743 名

(注3)

パーヴォ・ヤルヴィ/N響は、R. シュトラウス・チクルスの CD 制作に取り組んでおり、第2弾として8月に日本でリリースされた『ドン・キホーテ、ティル・オイレンシュピーゲル&ばらの騎士』(制作：ソニーミュージック)は、『レコード芸術』誌(音楽の友社刊)主催の2016年度の第54回『レコード・アカデミー賞』(管弦楽曲部門)を受賞している。

【付記】ロンドン公演での試み

ヨーロッパ公演のうち唯一、ロンドン公演については、N響自身が主催者となるスキームで実施した。この為、集客やPR活動についてもN響が主体的に取り組んだ。まず6月に15日間にわたって事務局職員1名をロンドンに派遣し、日本企業の関係者を中心にチケットのセールス活動を行った。また、1月には職員2名を派遣して、国際交流基金ロンドン事務所と共に、ロンドン公演でその作品を取り上げる作曲家・武満徹についてのトークイベントを開催した。更に、公演前日には、在英日本大使館でN響メンバーによる室内楽コンサート(弦楽四重奏)を日英の関係者を招いて行った。この他、公演当日には、ロンドンの日本人学校の生徒・父兄や英国王立音楽アカデミーの学生達を招いての公開リハーサルを行い、日英の文化交流を図った。

II. 公演活動

1. 定期公演

NHKホールでの定期公演（A、Cプログラム）は、2016年度も例年と同じ18プログラム・36公演を実施した。サントリーホールでの定期公演（Bプログラム）については、ホールの改修工事の為、例年より1プログラム・2公演少ない8プログラム・16公演となった。定期公演では、N響創立90周年特別企画として世界最高レベルの歌手たちを招いて12月に行った、N響名誉音楽監督シャルル・デュトワ指揮によるビゼー《歌劇「カルメン」》（演奏会形式）が大きな反響を呼んだ。また、5月に世界的なジャズピアニストであるチック・コリアと小曾根真を迎えて、尾高忠明指揮で行ったモーツァルト《2台のピアノのための協奏曲》も斬新な試みとして好評を得た。（注）

（注）最も心に残ったN響コンサート2016（機関誌「Philharmony」2017年4月号）

（参考①）定期公演入場者と定期会員（席）数

2016年度の定期公演入場者の総数は11万2,868人で、前年度・2015年度の12万5,186人を下回り、目標とした12万人を維持することは出来なかった。ちなみに、NHKホールでの定期公演36回のうち、3,000人を超える入場者があったのは、2015年度は9回だったのに対して、2016年度は3回だった（注1）。

また、定期会員（席）数は、2016年度は年間会員・シーズン会員合わせて9,396人（うち年間会員8,025人）で、2015年度の9,560人（同8,079人）に比べてこちらも減少した（注2）。定期会員数は過去2シーズン連続して増加していたが、減少に転じた。

（注1）12月Aプロ2日目 3,176人 指揮：シャルル・デュトワ

ビゼー《歌劇「カルメン」》（演奏会形式）

2月Cプロ1日目 3,018人 指揮：パーヴォ・ヤルヴィ

2日目 3,118人 ショスタコーヴィチ《交響曲第10番》他

（注2）2015/2016と2016/2017のシーズン終了時点での比較

（参考②）定期公演の収入

2016年度の定期公演のチケット収入は、5億7,800万円余りで、前年度・2015年度に比べて約5,300万円、率にして8・5%の減収となった。この要因として

は、定期会員数の減少に加えて、前年度好調だった1回券の販売枚数（注）が大幅に落ち込んだことによると考えられる。

（注）過去5年の1回券販売枚数

2016年度 32,935枚（月平均3,659枚）

2015年度 40,014枚（月平均4,446枚）

2014年度 35,961枚（月平均3,995枚）

2013年度 32,762枚（月平均3,640枚）

2012年度 28,367枚（月平均3,151枚）

上記の要因としては、①前年度・2015年度は新しい首席指揮者の就任による集客効果が極めて大きかったこと②2016年度は定期公演以外にN響創立90周年記念の演奏会があり、そちらのチケット購入を優先選択する人が多かったこと等が考えられ、今後の動向を注視している。

2. N響創立90周年記念演奏会

N響創立90周年のメイン事業となる記念特別演奏会として、9月に首席指揮者パーヴォ・ヤルヴィによるマーラーの大作《交響曲第8番「一千人の交響曲」》を海外から錚々たる歌手陣を招いてNHKホールで行った。また、年末恒例のベートヴェン「第9」演奏会についても創立90周年の記念演奏会として位置付け、桂冠名誉指揮者ヘルベルト・ブロムシュテット（注1）が充実したソリスト・合唱団と共に行った。これらの公演はいずれもチケットが完売となり、NHKホールで行った公演では全て3,000人を上回る入場者があった（注2）。

（注1）ヘルベルト・ブロムシュテット氏には、12月の来日に合わせて「桂冠」の称号を授与

（注2）マーラー「一千人の交響曲」特別演奏会（9/8）3,130名

ベートーヴェン「第9」演奏会（12/21）3,242名

（12/23）3,307名

（12/25）3,292名

この他、10月には「N響90周年&サントリーホール30周年」と銘打って、マーラー《交響曲第3番》をパーヴォ・ヤルヴィ指揮で演奏し、こちらの公演もチケットは完売となった。

3. 自主公演（特別公演）

(1) Music Tomorrow 2016

優れた現代作品を取り上げて演奏するN響では唯一の現代音楽の公演。第64回尾高賞受賞曲（後記）の他、N響の委嘱作品である大胡恵《「何を育てているの？」「白いヒヤシンス」（2016）》の世界初演を行った。指揮は下野竜也。
(6/28 東京オペラシティ・コンサートホール)

(2) N響「夏」2016

恒例のサマーコンサート。クリスティアン・アルミンクの指揮でモーツァルト《クラリネット協奏曲》やドヴォルザーク《交響曲第9番「新世界から」》他の名曲を演奏。
(7/15NHKホール)

(3) 松山定期演奏会

愛媛県内の多くの企業の協賛を得て毎年行っている公演。演奏内容はN響「夏」と同じ。
(7/17 愛媛県県民文化会館)

(4) N響ほっとコンサート

夏休みの期間中に実施する青少年、ファミリー向けのコンサート。2016年は「ヒーロー・ヒロイン大集合」というテーマで、TV「サンダーバード」の音楽などを取り上げた。指揮は広上淳一。ロビーにはオーケストラの色々な楽器が用意された「楽器体験コーナー」があり、N響楽員らが、直接、子供たちに手ほどきを行った。
(7/31NHKホール)

(5) N響 Special Concert

夏休み最後の思い出に残るコンサートを、という意図で企画。演奏会前半は、ソプラノの森麻季を迎えて、ベッリーニやプッチーニのイタリア・オペラの名曲を披露した。指揮はジョン・アクセルロッド。
(8/21 サントリーホール)

(6) N響横浜スペシャル

休止になったサントリーホールでの定期公演に代わるものとして企画したもの。プログラムはパーヴォ・ヤルヴィ指揮による武満徹《弦楽のためのレクイエム（1957）》、マーラー《交響曲第6番「悲劇的」》で、ヨーロッパ公演直前の公演となった。プログラムは、ロンドン公演と同じ構成。2日目の公演は平日のマチネ（昼公演）という初めての試みを実施した。また、RCAレーベル（ソニー）によるライブ録音も行った。
(2/22、2/23 横浜みなとみらいホール)

4. NHK音楽祭

NHKの秋の音楽イベント。世界一流の指揮者やオーケストラを招いて開催されているが、N響はトゥガン・ソヒエフの指揮で登場。没後20年を迎えた武満徹の後期作品《マイ・ウェイ・オブ・ライフ》を取り上げた他、ハイドンやブラームスの交響曲を演奏した。
(10/31NHKホール)

5. 地方公演

NHKとの共催事業として全国各地で実施している公演。
2016年度は関東甲信越・東海北陸で、高崎（群馬県）、宇都宮、長野、岐阜、金沢、豊橋（愛知県）、静岡、新潟の8都市と、大阪で実施。

6. 契約公演

2016年度に出演した契約公演（国内）は31公演。
東京・春・音楽祭では、ワーグナーの楽劇『ニーベルングの指環』第2日《ジークフリート》（演奏会形式）に出演した。指揮はマレク・ヤノフスキ。
(4/7、4/10 東京文化会館大ホール)

7月には、N響コンサートマスターを務めたヴァイオリニスト徳永二男氏の楽壇生活50周年記念演奏会に出演した。
(7/7 サントリーホール)

地方の都市では、岡山、岩国（山口県）、益田（島根県）、三原（広島県）、四日市（三重県）、郡山（福島県）、高岡（富山県）、名古屋、いわき（福島県）等での公演に出演した。

7. 海外での公演

6月に台湾（注1）、11月には韓国（注2）での公演に出演した。N響が台湾を訪問したのは1971年以來45年ぶりということもあって現地での関心は高く、初日には就任したばかりの蔡英文総統も鑑賞に訪れた。韓国での演奏は、8月に新しくソウルに完成したクラシック専用ホールの開館記念の催しのひとつとして招待、実施されたものである。

（注1）台湾公演 指揮：下野竜也

ブラームス《交響曲2番》ドヴォルザーク《交響曲9番「新世界から」》他

(6/3、6/4 台北・国家音楽庁)

(注2) 韓国公演 指揮：デーヴィッド・ジンマン

グレツキ《交響曲第3番「悲歌のシンフォニー」》他

(11/13 ソウル・ロッテ・コンサートホール)

III. 放送への協力

放送出演、公開演奏の放送等により NHK の業務に協力している。2017 年 1 月からの NHK の大河ドラマ「おんな城主 直虎」のテーマ音楽や劇伴音楽をラン・ランのピアノ、パーヴォ・ヤルヴィの指揮という超一流の布陣で収録、現在、放送されている。これらの演奏は CD 化された。

ヨーロッパ公演のうち、ベルリン・フィルハーモニーでの公演が放送収録され 3 月末に BS プレミアムで放送された他、10 月のサントリーホールでの公演が 8K・スーパーハイビジョンにより収録され、8K の周知・普及に活用されている。

2 日間行われる各定期公演の初日は NHK-FM で毎回生放送された他、テレビ収録されて後日 E テレ「クラシック音楽館」で放送されている他、「名曲アルバム」の収録も行った。

IV. 特別支援・賛助会員

2016 年度末の賛助会員数（1 口・50 万円、個人も含む）については、194 社 280 口で 2015 年度末（192 社・288 口）より 2 社増・8 口減となった。企業の業績によって入・退会が一進一退を繰り返しているのが実情である。

V. 広報活動

N 響 HP の他、2015 年度から利用を始めた Facebook や Twitter といった SNS をより積極的に活用して、海外も意識した訴求力のある PR を展開した。N 響創立 90 周年に合わせて、首席指揮者パーヴォ・ヤルヴィに焦点を当てたインタビュー記事等を、音楽誌だけではなく女性誌にも掲載しファン層の拡大を図った。パーヴォ・ヤルヴィについては、10 月に NHK ニュース「おはよう日本」で企画として取り上げられた他、ヨーロッパ公演に合わせる形で、国際放送の NHK ワールドニュースでも紹介された。

VI. 社会貢献への取り組み

1. 室内楽を活用したアウトリーチ

(1) 熊本地震復興支援コンサート

熊本地震復興支援として、「N響からのおくりもの～N響室内楽“四季”～」と題したコンサートを今年2月に熊本県立劇場、NHK熊本放送局との共催で行った。入場無料のコンサートで、県民から観覧希望者を募集した結果、満席となった。第1コンサートマスターの篠崎史紀を中心としたN響メンバーが出演。熊本の豊かな季節を織り込んだ語りと共にヴィヴァルディ《四季》などを演奏した。 (2/6 熊本県立劇場コンサートホール)

(2) 学校コンサート

NHK との共催による「NHK こども音楽クラブ」を台風21号で大きな被害を受けた沖縄県与那国町の小学校をはじめ、関東・東北豪雨や東日本大震災などの被災地を含む全国10の小学校と中学校1校で行った。

(3) 病院コンサート

東京大学医科学研究所附属病院（東京・港区）で1月に実施した。

2. 国際交流活動

(1) ベトナム国立交響楽団との交流

ベトナム国立交響楽団（VNSO）からの要請を受けて、11月にハノイで行われたベトナム国立音楽院創立60年を記念するコンサートに楽員1名（トロンボーン）を派遣。演奏への参加と練習指導を行った。また、今年3月には、VNSOのライブラリアン2名の研修を受け入れた。

(2) 留学生招待

東京大学の協力を得て首都圏の大学で学ぶ外国人留学生を招待。2016年度は19の定期公演、Music Tomorrow で実施。1,127人が来場した。

3. N響アカデミー

プロのオーケストラ楽員を目指す若手音楽家の育成を目的に2003年にスタートした事業。

ヴァイオリン4名、ホルン1名が在籍しており（4月末現在）、楽員によるレッスンや演奏会への出演などの研鑽を積んでいる。

4. 歴史的資料の保存

N響の創立以来の歴史的音楽資料を演奏会記録と関連付けて統一的に整理する作業を継続して進めた。創立 100 周年に向けて 10 年計画でデジタル・アーカイブ化を進める計画である。

VII. 顕彰の実施

1. 尾高賞

故・尾高尚忠氏の功績をたたえ、邦人作曲家による優れたオーケストラ作品を顕彰するために 1952 年（昭和 27 年）に設けられた作曲賞。第 64 回となる 2016 年度は権代敦彦氏の《オーケストラのための Vice Versa—逆も真なり—（2015）》が選ばれた。授賞作品は 2016 年 6 月に開催された Music Tomorrow 2016 で演奏された。また、今回から贈呈式についても公演に合わせて行われることになった。

2. 有馬賞

故・有馬大五郎氏（元・N響副理事長）の偉業を記念するために 1981 年（昭和 56 年）に設けられた。N響の発展に功績のあった関係者、関係団体、職員が授賞の対象。2016 年度は、埼玉会館（公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団）と指揮者の広上淳一氏に授与された。

VIII. 経営管理

1. 収支の適正化

2016 年度は創立 90 周年記念公演やヨーロッパ公演など、例年になく大型の公演を実施した。適正な収支バランスを維持するべく、協賛金や寄付金などによる収入の確保を図る一方で、海外から招聘する指揮者、ソリストの航空運賃やホテル代をはじめとした経費の節減に努めた。また、為替の動向を見ながらユーロによる外貨預金を設定し、為替リスクを回避する措置を講じた。

2. 中期経営方針の策定

2017年度から3カ年の中期経営方針を策定した。大きく速く変化する時代の中でN響の良き伝統を守っていくためにも、改革すべきことは大胆に変えていく勇気が必要であり、「国際化」と「IT化」の推進をキーワードに取り組みを進めていく。そのためには、安定した財政基盤の確立が不可欠であり、公益性を踏まえながら、適切なチケット料金の設定により収入の確保に努めると共に、企業、個人を問わず、より幅広い支援を得ることが出来るよう、新しい寄付制度の創設についても検討していく。

3. 就業環境の整備・改善

楽員、事務局員を問わず、N響で業務に従事するものが安心して働け、その能力を十分発揮できるようにすることが重要であり、その下地づくりとして、ハラスメント防止のための研修を行った他、メンタル面での不調を未然に防止するためのストレスチェックの仕組みを導入した。

IX. 業務の適正を確保するための体制の評価

当団の全体的な内部統制について、「統制環境」「リスクの評価と対応」「統制活動」「情報と伝達」「モニタリング」「ITへの対応」という6つの観点から、整備状況および運用状況の有効性を評価した。また、業務上考えられる重要なリスクを抽出した上で、必要な対応(内部統制)が実施されていることを評価した。評価の結果、平成29年3月31日時点における当団の内部統制は、概ね有効であると判断した。

【資料】演奏活動

公 演	年間公演回数	年間入場者数	内 容
定期公演	52回	112,868人	A定期（18回） B定期（16回） C定期（18回）
特別公演	12回	28,802人	Music Tomorrow、N響「夏」、松山定期演奏会、N響ほっとコンサート、N響 Special Concert、N響90周年記念特別演奏会、第9、N響横浜スペシャル
地方公演	10回	12,666人	高崎、宇都宮、長野、岐阜、金沢、豊橋、静岡、NHK音楽祭、新潟、大阪
契約公演	34回 (海外3回含む)	—	東京春、オーチャード、名古屋、いわき、横浜、、福井、郡山、、岡山、岩国等
放送演奏	3回	—	大河ドラマ収録、放送記念日、名曲アルバム
海外公演	7回	—	ベルリン、ルクセンブルグ、パリ、アムステルダム、ロンドン、ウィーン、ケルン

X. 法人の概況

(1) 設立年月日

1942年4月27日

1926年10月5日 「新交響楽団」(任意団体) 設立

1942年4月27日 「財団法人 日本交響楽団」 設立

1951年8月1日 「財団法人 NHK交響楽団」に改称

2010年4月1日 「公益財団法人 NHK交響楽団」 設立

(2) 目的

交響管弦楽により、わが国音楽芸術の向上発展を図り、その社会文化使命を達成することをもって目的とする。

(3) 事業内容

- 1) 放送演奏
- 2) 公開演奏
- 3) 演奏に必要な研究ならびに施設の運営
- 4) 機関雑誌の発行
- 5) その目的を達成するために必要な事業

(4) 所管官庁

内閣府

(5) 会員状況 (2017年3月31日現在)

- 1) 定期会員 9,396人 (年間会員およびシーズン会員合計)
- 2) 賛助会員 194社 280口 (一口50万円)

(6) 特別支援・協力企業

1) 特別支援企業

岩谷産業株式会社、三菱地所株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、株式会社みずほ銀行、公益財団法人渋谷育英会

2) 特別協力企業

BMWジャパン、ルフトハンザ ドイツ航空会社、ユナイテッド航空会社、全日本空輸株式会社、株式会社松尾楽器商会、ヤマハ株式会社、株式会社パレスホテル

(7) 事務所・支部所在地

1) 事務所・練習場・N響ガイド (入場券販売業務)

東京都港区高輪 2-16-49

XI. 処務の概況

(1) 理事・監事および評議員に関する事項

1) 理事・監事

(2017年3月31日現在)

役 職	氏 名	担当職務・現職
理 事 長	今 井 環	
常務理事	森 茂雄	演奏制作・事業広報・経理総務
理 事	相川 直樹	慶應義塾大学 名誉教授
理 事	伊藤 京子	元 日本演奏連盟 理事長
理 事	岡田 知之	洗足学園音楽大学 名誉教授
理 事	木村 恵司	三菱地所 取締役
理 事	斉藤 邦彦	民間外交推進協会 顧問
理 事	銭谷 眞美	東京国立博物館長
理 事	毛利 衛	日本科学未来館 館長、宇宙飛行士
監 事	後藤 宏彦	日本放送協会 関連事業局専任部長
監 事	酒井 秀晃	みずほ銀行 営業第十八部長

2) 評議員

(2017年3月31日現在)

役 職	氏 名	現 職
評 議 員	板野 裕爾	NHKエンタープライズ 代表取締役社長
評 議 員	井上 樹彦	NHKアイテック 代表取締役社長
評 議 員	上田 良一	日本放送協会 会長
評 議 員	江頭 敏明	三井住友海上火災保険 取締役常任顧問(4/1)
評 議 員	海老澤 敏	国立音楽大学 名誉教授
評 議 員	小泉 公二	NHK出版 代表取締役社長
評 議 員	鈴木 賢一	NHK厚生文化事業団 理事長
評 議 員	檀 ふみ	女優
評 議 員	長岡 實	資本市場研究会 顧問
評 議 員	前田 昭雄	上野学園大学 特別顧問
評 議 員	山口 均	アルプスカード 代表取締役社長

(2) 理事・監事および評議員の異動に関する事項

区 分	年 月 日	退 任	新 任
理事長	2016年6月9日	木田 幸紀	今井 環
理 事	2016年6月9日	—	團 宏明
監 事	2016年6月9日	井上 樹彦	後藤 宏彦
評議員	2016年6月9日	今井 環	板野 裕爾
”	2016年6月9日	久保田 啓一	井上 樹彦
”	2016年9月23日	浅谷友一郎	鈴木 賢一
”	2017年2月13日	靱井 勝人	上田 良一

(3) 職員に関する事項

(2017年3月31日現在)

職 種	人 数	平均年齢
楽 員	101人	43.4歳
事務職員	21人	45.0歳
嘱託職員	11人	61.0歳
合計または平均	133人	45.1歳

(4) 会議に関する事項

1) 理事会の開催状況

区 分	年 月 日	議 題
第34回理事会	2016年4月24日	1.代表理事の退任及び選任について
第35回理事会	2016年5月23日	1.業務運営状況報告 2.2015年度事業報告及び収支決算 3.第22回評議員会の開催について

第 36 回理事会	2016 年 6 月 9 日	1. 森茂雄の代表理事就任について
第 37 回理事会	2016 年 6 月 29 日	1. 今井環理事の代表理事就任及び森茂雄 代表理事の業務執行理事就任 2. 常務理事の報酬について
第 38 回理事会	2016 年 9 月 15 日	1. 業務運営状況報告 2. 2016 年度事業計画および収支予算
第 39 回理事会	2016 年 12 月 22 日	1. 第 24 回評議員会開催について
第 40 回理事会	2017 年 2 月 13 日	1. 2107～2019 年度中期経営計画方針 2. 2017 年度事業計画及び収支予算

2) 評議員会の開催状況

区 分	年 月 日	議 題
第 22 回評議員会	2016 年 6 月 9 日	1. 2015 年度事業報告及び決算について 2. 評議員の選任 3. 理事の選任 4. 監事の選任
第 23 回評議員会	2016 年 9 月 14 日	1. 評議員の選任について
第 24 回評議員会	2017 年 2 月 13 日	1. 2107～2019 年度中期経営計画方針 2. 2017 年度事業計画及び収支予算 3. 評議員の選任について

XII. 理事および監事に支払った報酬の額

当事業年度における当財団の理事および監事に対する報酬の内容は、以下のとおり。

対象者	人数	報酬の額
理事	9人	29,330千円
監事	2人	0千円

注1) 上記のうち、非常勤理事7名、非常勤監事2名には、報酬を支払っていない。

注2) 理事の人数は、2015年10月までは10人（うち常勤理事3人）、11月以降は9人（うち常勤理事2人）